

---

# 俺の青春って……何？

haruxtuti

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の青春って……何？

### 【Nコード】

N3523BA

### 【作者名】

haruxtuti

### 【あらすじ】

女子に告白された事が無い男子、堀井一騎<sup>ほらいし</sup>はモテないからと言って2次元をこよなく愛すオタクになっていた。だがそんなモテないと思っていた一騎に思いを寄せている数人の女子が居たりして……そんな男の子の残念な青春ラブコメになってたらしいなあ、とか思っている作品。

## プロローグ

暑い暑い東京の夏、そんな蒸し暑くて堪らない中、部屋に引きこもっている一人の男が居た。

「暑いな……エアコン、修理出そうかな？」

そんな独り事を呟きながら目の前のPCに写る2次元少女を見る。

今は日曜日、学校なんて3次元らしい所へ行かなくても怒られない。

そんな至福の時にアニメを見ないでどうする！

「よし！ 次は禁書 録見直そう！」

正直言つてこんな事していいのかな？なんて思いながら2次元つまりはアニメなどにどっぷりはまっってしまった。

3次元の女子から告白された事が無い、そんな事で落ち込んでいると、とある友人Sが勧めてきた物、それがアニメだった。

「あれから本当にどっぷりはまってるなあ〜」

最初の頃は恥ずかしくて親とか妹に言えなかったがだんだんとそんな時期も薄れてきた。

母親には変な目で見られ、妹には「お兄ちゃんがグレた〜」とか言っただけで泣かれたし……

宣言するが3次元の妹なんて想像しているような優しく「お兄ちゃん」なんて言ってくれる存在じゃない！

「本当にエアコン修理して貰おうかな〜」

そんな事を思いながら最終的に何が言いたいかと言つとだ！  
2次元最高！

## 第1話 隣の席は……

月曜日、1週間の始まりであり学校の始まりである最悪の日、と言ってもまだ中学2年生である彼、堀井一騎ほりい いっきは眠そうにあくびをしながらベツトから降りる。

「お兄ちゃん！ 早く朝ごはん食べてよ〜」

「あ〜い」

聞えるはずもない声を出して静かに2階から1階に下りて食卓のイスに座り、母親が作ってくれたパンとハムエッグの朝食をモソモソと食べ始める。

「お兄ちゃん！ 私、朝部活だから先行くよ！」

「どうぞ〜」

妹がドタドタと玄関まで走って扉を開ける音を聞きながら朝食を食べ終えると制服に着替えて学校へ行く準備をする。

1つ下の妹は剣道部に所属しており、1年生エースと言われている程の実力だ。

それに妹は周りから可愛い、勉強が出来る、スポーツも出来る。などと言われている典型的リア充なのに彼氏が居ないのはどういう事だろうか？

「行つてきま〜す」

母親には聞えないながらも静かに言ってから玄関を出る。

家から学校は徒歩で5分ととても近場なのだが夏の為、朝からすこぶる暑い。

「やる気出ねー」

そんな感じでノソノソと歩みを進めて学校へ向かう一騎だった。

学校の中に入り下駄箱に靴を入れて靴を取り出すという日常的に面倒な事を終えた後、即座に自分のクラスである2-2へと歩き出す。

「一騎、おはよう。今日も相変わらず遅刻ギリギリの登校だな」  
「別にいいだろ？ 翔、眠いんだ。少し眠らせてくれ」

教室に入ると一騎の前の席である友人Sこと、竹田翔ただしやうの言葉を軽く流して自分の席に座り眠る。

「おいおい一騎、つれないなあ、土日でストーカーしてたのバレたのか？」

「俺はそんな事してないだろ！ するならお前だ！ 一体お前の中の俺はどんな奴なんだよ！」

「成績、中の上でスポーツは面倒だと言ってサボっている為いつも体育の評価は1だが真面目にやれば5は取れる程の運動神経を持ち、剣道をやっていたが飽きて止め、中性的な顔立ちをしているのに何故かモテないすこぶる残念な男」

「……すげえな」

思わず友人の情報収集力の凄さに驚いてしまう一騎。

「HR始めるぞ、皆起立」

そんな驚きを隠さずに居ると担任が入ってきて話しが中断してしまった。

別に起立しなくてもいいよな。

なんて考え方をしているのは不良なのだろうか？ そんな疑問を抱えながら一騎は自分の席の隣に居る女子を横目で見る。

横に座る女子も起立はせずに座っている。

肩より下まで伸ばした長い茶色っぽい髪をストレートにしているも無表情な女子、

彼女の名前はひめがみとうか姫神冬花、

傍から見れば美少女間違いなしのこの女子、不良で性格が悪い……らしい。

笑ってれば普通に見られるのにな、とか何とか思う一騎。

「……あ」

「……」

そんな女子を見ているとふいに視線が交差してしまう。

「何か用？」

「い、いや別に」

「そう……なら見ないで変態」

「……性格悪いなあ」

訂正しようか。不良で性格が悪いらしい、じゃなくて悪い。これ絶対。

「じゃあ解散、1時間目の体育に間に合うようにジャージに着替えて体育館に集合、今日は種目決めをするからな」

「一騎」

「どうした？ 翔」

「種目選択、何にする？ サッカーかバスケかバトミントン」

「まあどれにしるサボるからな。サッカーでいいよ」

「じゃあ俺も」

前と後ろでそんな他愛もない会話をしながら席を立ち、体育館へと向かった。

この学校では体育が男女混合で行われる。

その為、女子が体育にあまり参加出来ないという事態が起こる事があるのだ。

「どうしてこうなった……」

「……」

そして今の状況に至る。簡単に説明すればサッカーへ行く人が多すぎたせいかジャンケンで負けた人がバスケかバトミントンに移る。というような事態になったとまずは言っておこう。

そしてだ。ジャンケンに負けた俺はバトミントンになり、2人1組のチームを作ると言った時、ペアになったのが姫神コイツ冬花だったと言っただ。

「おい！ 翔、お前だけなんでサッカーなんだよ！」

「一騎よ、それは俺がジャンケンに勝ったからだろ？」

「違ええよ！ お前さっきまで俺と一緒にするとかほざいてただろ！」

「……一騎よ、時には裏切るといふのも大切なのだよ」

「後で殺す」

「お、怖い怖い、俺はサッカーで突っ立ってますよ。お前は二人と



も動かないんじや示しが付かないよなあ。まあせいぜい二人で頑張  
つてくれえい」

……お分かり頂けたでしょうか？ 裏切られ、無口毒舌女子とペア  
になり、動かないと怒られるというこの地獄、HELL、

「……変態、試合だ」

「わあってますよ。それと変態は止めろ、無口毒舌女子」

「……分かった。ミジン」

「喧嘩売ってるよなあ？ お前あきらかに俺に喧嘩売ってるよなあ  
？」

「こんな挑発に乗るなんて、軽い男」

「……やべえ、ムカツク」

結局、このペアは20対0で惨敗、敗因？ そんなの分かってるじ  
やありませんか。

2人とも動かなかったからだ……

「はあ、今日は良いこと無しだな」

一騎はそんな嘆きを呟きながら昼飯を食べる為、屋上へ向かってい  
た。

何故、暑いのに屋上で食べるかと聞かれたら青い空でも見て元気出  
そうかな〜とか考えちゃったりしたからだ。

「やっぱり暑いなあ」

屋上の扉を開けると直射日光が肌を差し焼けそうなほど暑い。

母親が作ってくれた弁当を広げ、玉子焼きを一つ頬張る。

この学校には給食というものが無い、そんな為かお弁当を作るか買

うかのどつちかになってしまつのだ。

「ごちそうさま」

手を合わせてすぐさま弁当をたたみそのまま後ろに身体を倒す。

青い空、時々雲が流れている、そんなすがすがしい光景、

そんな時間がどのくらい続いていただろう？ ふいに足音が聞えてくる。

昼休みも終わる時間に誰だろう？ と素朴な疑問を感じて頭を上げる。

「げっ」

「人の顔を見てげっ、は無いでしょ？ ミジンコ」

目の前に居たのは冬花だった。

「早く此処から居なくなってくれない？ 空気がよどむから」

「本当に毒舌ですね。はいはい、分かりました。行きますよ」

もう彼女の毒舌に付き合え切れないと分かった一騎は静かに立ち上がり、扉へ向かう。

風が強く吹く中、一騎は静かに冬花に向き直った。

「何か用？」

「パンツ、白なんだな……」

「っ……！？ 変態」

そんな声を後ろに一騎は屋上の扉を閉めた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3523ba/>

---

俺の青春って.....何？

2012年1月9日02時49分発行